

各部の運営方針と目標

平成20年度

平成 20 年 5 月



三 鷹 市

平成 20 年度「各部の運営方針と目標」の策定にあたって

このたび、平成 20 年度の「各部の運営方針と目標」を策定しました。

「各部の運営方針と目標」は、「部の使命・目標に関する認識」、職員数、予算規模といった「部の経営資源」、また、第 3 次基本計画（第 2 次改定）や平成 20 年度の施政方針に基づく「各部の重点事業」等を明確にした、その年度の「部の経営の基本方針」を示すものです。

この「各部の運営方針と目標」の策定は、平成 15 年度に私が市長に就任した直後に始めたもので、今年で 6 度目の策定となります。この取組みは、これまで三鷹市が力を入れてきた「成果重視の自治体運営」と「説明責任の確立」に向けた取組みを、さらに前進させるために有効な手法であると認識しています。「各部の運営方針と目標」には、各部それぞれの運営方針の冒頭に固有名詞で名を連ねる部長たちが、市の基本理念と市長の方針を尊重するとともに、部の管理職として、さらに「庁内分権」の担い手として、部の使命と方針を自覚して各部のマネジメントにあたる姿勢とそのための具体的施策の内容が示されています。

三鷹市では、毎年 10 月に、市の理事者と各部の部課長が各部毎に一堂に会する「政策会議」を開催し、当年度事業の進捗状況を確認するとともに、新年度に向けた様々な事業の提案についての協議を行います。つまり今年度の「各部の運営方針と目標」の策定過程は、すでに昨年秋の「政策会議」の議論から始まっており、目前の課題にとどまらず、長期的な視点に基づく課題解決策の模索が含まれたものです。

政策会議の場では、各部長等から意欲的な事業提案がなされるとともに、私も市長として、市政運営の理念や個別政策に対する考えを率直に伝えます。その場は、文字通り「白熱」した議論の場となり、副市長、教育長も加わって真剣な意見交換が行われます。これは、三鷹市の良き伝統ともいえる「活発な政策論議を行う職場風土」の現場そのものであり、言わば「職員からのボトムアップと長によるトップマネジメント」の融合と相乗の効果が示されるものといえます。さらに、意見交換や議論の過程を通して、参加者が事前には想定していなかった課題解決の新しい方向性が呼び起されることも少なくないものであり、まさに「創発性」が醸し出される場になっています。

さて、平成 20 年度は、第 3 次三鷹市基本計画後期の本格的な実践が求められる年度に位置づけられ、昨年度の第 2 次改定において、従来の 6 つの最重点プロジェクトに新たに加えた「都市の更新・再生プロジェクト」の着実な推進を図りたいと考えています。そこで、「都市再生に向けたビジョン」の明確化、小・中一貫教育に象徴される人財の育成、そして全ての世代が安心して暮らせるための創意工夫によるセーフティネットの構築という三つの方向性を柱とする、「未来への投資」を本格的にスタートする年とも位置づけています。これらの取組みに際

しては、各部が強力に連携した課題別のプロジェクトチームや都市再生本部等の実質的な活躍をはじめ、経営本部・経営会議を中心とした全庁的な推進体制が必要です。

そこで、「各部の運営方針と目標」は、部長の権限と責任のもとに自立的な部内運営を行うことで着実に日々の経常業務に取り組むと同時に、全庁的な課題に対応していく機動力・応用力を発揮するためのシステムとして有効に活用していく必要があると考えています。

私は、三鷹市の強みである職員と組織が持つ「組織的能力」の最大化・最適化を図るとともに、市民の皆様の立場に立った市政運営をさらに進めるために、絶えざる改善を加えながら「各部の運営方針と目標」の策定と具体化に取り組みます。

平成 20 年 5 月

三鷹市長 清原慶子